

APTFF および UNNExT 会議報告

2013年9月9日～9月12日

北京（中国）

報告者：国連 CEFACT 日本委員会
サプライチェーン情報基盤研究会
菅又 久直

I. 会議日程：

- 9月9日（月） 東京発 北京着
- 9月10日（火） APTFF 会議
- 9月11日（水） APTFF 会議、UNNExT アドバイザリー会議
- 9月12日（木） 北京発 東京着

II. 会議参加の目的：

国連CEFACT日本委員会・サプライチェーン情報基盤研究会（SIPS）の国際連携活動の一環として、アジア地域における貿易手続電子化の動向を調査し、また我が国で検討した国際標準に基づくビジネスインフラの導入をアジア太平洋地域に波及させる可能性調査を目的に、一般財団法人日本貿易関係手続簡易化協会（JASTPRO）の依頼により、**APTFF (Asia-Pacific Trade Facilitation Forum)**、および同時に開催された **UNNExT (United Nations Network of Experts for Paperless Trade in Asia and Pacific)** 会議にUNNExTアドバイザーの一員として参加した。

III. APTFF 会議：

アジア太平洋地域の貿易手続簡易化と電子化を促進するため、国連 ESCAP とアジア開発銀行の協賛により、第5回となる APTFF(Asia-Pacific Trade Facilitation Forum)が開催された。当フォーラムは地域各国の貿易手続簡易化を進めるために、各国間の情報交換を行なうとともに、協力して貿易手続簡易化戦略を検討するものである。

当フォーラムには国連 ESCAP 加盟国（62ヶ国）の27ヶ国、および当地域を支援する国連 ESCAP、国連 ECE、世界銀行、アジア開発銀行、UNCTAD、WCO 等の国際機関が参加した。参加者は約180名。

アジア太平洋地域からの参加国は次の通り。

アフガニスタン、アゼルバイジャン、バングラディシュ、ブータン、カンボジア、中国、インド、インドネシア、イラン、日本、キルギスタン、ラオス、マレーシア、モルジブ、モンゴル、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、韓国、サモア、スリランカ、タジキスタン、タイ、トルコ、ウズベキスタン、ベトナム

今回のテーマは「効率的で統合化されたサプライチェーンに向けて」とし、オープニング・セッションおよびハイレベル・パネルに続き、4つのテーマ別セッションが行われた。

(1) オープニング・セッション

主催者挨拶：

Mr. Fu Cheng : CIECC (China International Electronic Commerce Center) 副主任

Dr. Ravi Ratnayake : ESCAP 貿易投資部 部長

Mr. Shintaro Hamanaka : ADB (アジア開発銀行) エコノミスト

Mr. Dong Fengming : Yiwu 市 副市長

Mr. Jiang Zengwei : 中国商務省副大臣

オープニング・セッションにおいて、APTFF2013のテーマに関し、国際サプライチェーンの管理には税関や国境管理組織のみならず、商取引・金融・物流を含めた全体の可視化が重要であるとの言及があった。

(2) ハイレベル・パネル

「効率的で統合化されたサプライチェーンに向けて」をテーマに、次の方々によるパネルディスカッションが行われた。

モデレータ：

Sajjad Ahmad : パキスタン商務省 Additional Secretary

パネル・メンバー

H. E. Edy Putra Irawady : インドネシア経済調整省 副大臣

Sambuu Demberel : モンゴル商工業会議所 議長

Patric Low : 香港 Fung Global Institute 合同副社長 (前 WTO Chief Economist)

Stanley Lim : FIATA (国際フォワーダ協会) 会長

ハイレベル・パネルの総括は次の通り。

- ・ 国レベルのサプライチェーン効率化を公式に進めるためには、法的枠組みが必要不可欠である。
- ・ 国家間の統合的な貿易円滑化の仕組みを確立するために、国際レベルのモデル法が整備されるべきである。
- ・ 国際関はサプライチェーンマネジメントのために継続的に支援する。
- ・ 中小企業が金融へアクセスする環境につき再強化する。
- ・ 貿易円滑化とサプライチェーンマネジメントのための IT ソリューションは推奨され、支援される。
- ・ ビジネスプロセスは調査され、単純化される。
- ・ 経済全体は改革して知識ベースに移行する。

- ・ シングルウィンドウの国家プログラムはバリューチェーンを強化するのに重要である。
- ・ サプライチェーンのサービスに関わる機構・団体の役割は強化されるべきで、彼らの能力は改善されるべきである。

(3) セッション1：統合開発のための国際貿易ロジスティックス効率の強化

モデレーター：

Mingke He：北京技術ビジネス大学 教授

スピーカ：

「統合開発とサプライチェーンの貿易ロジスティックス：状況と課題」

Ben Shepherd：貿易開発コンサルタント 社長

「中国の農業ロジスティックスと統合開発の影響」

Yu Fei：ADB（アジア開発銀行） 自然資源エコノミスト

「国際サプライチェーンの障壁：4大陸の事例」

Wojciech Piotrowicz：オックスフォード大学 フェロー研究者

「統合開発の国際貿易ロジスティックス強化：物流業界における逆転の発想」

Stephen Fung：DPDHL（Deutsche Post DHL）社内コンサルティング 賛助パートナー

ディスカサント：

Jean-Francois Arvis：世界銀行 上級エコノミスト（TV 会議で参加）

セッション1（ロジスティックス）の総括は次の通り。

- ・ 国際貿易ロジスティックスは国内ロジスティックス能力から完全に切り離すことはできず、両者により統括的開発に貢献できる。
 - ◇ 農業分野における、生産者の農産物価格と消費者価格の差を削減する良い事例が示された。
 - ◇ 政府が国内のロジスティックス運用者について期待することは、大手国際企業が緊密な連携を必要とする際に、国内の運用者との戦略的なパートナーシップを構築することである。差別のない、公平なパートナーシップは関連する市場同士の業務円滑化につながる。
- ・ ロジスティックスに関係した分野について国境を跨がった協力の強化が重要である。
 - ◇ 自由貿易と外資直接投資(FDI)政策を含み、国際的な市場の統合が重要である。
 - ◇ 国々はハードとソフトのインフラ構築のために協力し合う必要がある。
- ・ 政策立案には、需要と供給の両視点からの参加が必要である。
 - ◇ 需要（ユーザ）側としては、生産者、輸出者および消費者を含める。
 - ◇ 高度な競争を確保することは、ユーザに付加されるビジネスコストの削減を意味する。
 - ◇ プロセス改善には、ステークホルダーの聞き取り、民間部門に起こっていることを周知させるなどの透明性が必要である。

(4) セッション2：貿易金融を通じた中小企業の国際サプライチェーンへの参加
モデレーター：

Yann uval：ESCAP 貿易投資部 貿易円滑化チーフ

スピーカ：

「貿易とサプライチェーン・ファイナンス」

Alexander R. Malaket：OPUS 国際アドバイザーサービス 社長

「ADB 貿易金融プログラム」

Steven Beck：ADB（アジア開発銀行） 貿易金融部長

「中小企業貿易金融の課題と機会」

George (Kam Ho) Yuen：中国商工業銀行（香港） 部長

「貿易金融：中小企業の新たなニーズ」

Sailendra Narain：インド中小企業成長開発金融センター（CESMED） 議長

ディスカサント：

Gloria Pasadilla：APEC 政策支援部門 上級アナリスト

セッション2（貿易金融）の総括は次の通り。

- ・ 中小企業が貿易金融にアクセスできないことが、中小企業を国際サプライチェーンに取り込む主要な障壁となっている。
- ・ 各種のステークホルダーにより、貿易金融の資源が開発されてきている。
 - ◇ ADB による貿易金融プログラム（TFP）
 - ◇ 中国における金融業界の中小企業へのファイナンス提供
- ・ 中小企業を国際サプライチェーンに組み込むためには、更なる環境整備が必要である。
 - ◇ サプライチェーン・ファイナンス・プログラムの開発
 - ◇ アジア太平洋一輸出信用機関または貿易金融基金設立の考慮
 - ◇ 貿易金融データと情報のギャップ認識
 - ◇ 貿易に関わる法制度と不確実性の緩和、および革新的貿易金融サービスの承認と活用

(5) セッション3：電子取引によるサプライチェーン統合の実現

モデレーター：

Kilaparti Ramakrishna：ESCAP 北東アジア事務所 所長

スピーカ：

「電子取引による統合国際サプライチェーン：課題と機会」

Sungheun Ha：韓国貿易ネットワーク（KTNET） 部長

「関連文書の電子化：WCO の活動」

Toshihiko Osawa：WCO（世界税関機構） 技術役員

「公共部門における民間標準：業界標準は国境における製品可視化を改善するか」

Patrik Jonasson : GS1 アジア太平洋 公共政策部長

「越境電子取引における課題：アジア太平洋地域の見通し」

Sangwon Lim : ESCAP 貿易円滑化部門

ディスカサント :

Luca G. Castellani : UNCITRAL アジア太平洋地域センター長

Andre Sceia : UNECE TIR (国際道路運送) 事務局

セッション3 (電子取引) の総括は次の通り。

- 貿易における電子取引には5つの課題がある。
 - ◇ 国際標準の使用
 - ◇ 法的枠組みのハーモナイゼーション
 - ◇ 各種当事者間の能力格差
 - ◇ 公共・民間の協力
 - ◇ コーディネーションの仕組みの欠如
- アジア太平洋地域では貿易電子化の推進を強く支持しているが、各国間の能力格差がその進行の妨げとなっている。
- 官民協力が貿易電子化の促進を早めることができるであろう。
- 従来 of 慣習を変化させることが重要。

(6) セッション4 : サプライチェーン効率化のためのシングルウィンドウの進展

モデレーター :

Jeff Procak : ADB 東アジア部門 金融地域協力担当

スピーカー :

Somnuk Keretho : タイ Kasetstart 大学 教授

Markus Pikart : 国連経済委員会(ECE) 経済渉外役員

P.Khennavong : ラオス財務省税関部 部長代理

Mee Wan Wong : マレーシア税関 ASEAN シングルウィンドウ作業グループ

ディスカサント :

Somak Wisetruangrot : タイ国際フレートフォワードーズ協会

貿易円滑化能力開発議長

セッション4 (シングルウィンドウ) で取り上げた、シングルウィンドウ構築の成功要因は次の通り。

- 野心的であり、且つ可能な方法で
- 国および地域の政策の策定
- 主要な貿易取引先のシングルウィンドウとの相互運用性
- 開発にあたってのベストプラクティス・ガイド
- 機関に跨る委員会/WG の組織化

- ・ 可能な限り国際標準の採用
- ・ 先導する法的枠組みの開発
- ・ ビジネス／金融モデルの継続性
- ・ 機関間情報システムモデルの検討

IV. UNNEXT アドバイザリ会議：

UNNEXT (United Nation Network of Expert on Paperless Trade in Asia and the Pacific：国連アジア太平洋電子取引専門家ネットワーク) は、電子取引 (Paperless Trade) と貿易のシングルウィンドウを、国際標準に基づき、アジア太平洋地域の主に発展途上国に促進するための、地域情報ハブを目指して 2009 年に発足したグループである。当グループは、国連 ESCAP (United Nation Economic and Social Commission for Asia and the Pacific：国連アジア太平洋経済社会委員会) および UNECE (United Nations Economic Commission for Europe：国連欧州経済委員会) が協力して発足したものであり、国際標準 (国連 CEFACT、WCO、京都議定書) に則り、電子取引と貿易シングルウィンドウのための調査分析・知識共有・ツールとガイド整備・教育研修・地域技術支援などの活動を行なっている。

今回の会合は第 4 回目の UNNEXT アドバイザリ委員会であり、次の方々が事務局およびメンバーである。

- ・ Ravi Patnayake (国連 ESCAP 貿易投資部門長) 事務局
- ・ Yann Duval (国連 ESCAP 貿易投資部門 貿易手続簡易化担当) 事務局
- ・ Sang-Won Lim (国連 ESCAP 貿易投資部門 貿易手続簡易化担当) 事務局
- ・ Tom Butterly (国連 ECE 貿易木材部門 貿易ソリューション課チーフ) 欠席
- ・ Markus Pikart (国連 ECE 貿易木材部門 貿易ソリューション)
- ・ Iqbal Babayev (アゼルバイジャン 税関)
- ・ Hong Xue (中国 北京師範大学 法制度担当アドバイザー)
- ・ 菅又 久直 (日本 国連 CEFACT 日本委員会 データモデル担当アドバイザー)
- ・ Kun Nhem (カンボジャ 税関)
- ・ Mee Wan Wong (マレーシア 税関 ASEAN シングルウィンドウ技術作業グループ)
- ・ Somnuk Keretho (タイ カセサット大学 ビジネスプロセス担当アドバイザー)
- ・ Aung Khin Myint (ミャンマー フレイト・フォワード協会 議長)
- ・ Tahseen Ahmed Khan (インド 通信情報技術省 電子情報技術部門 国家情報センター)
- ・ Jonathan Koh (シンガポール クリムソンロジック社) 欠席

(1) UNNEXT 活動トピック

翌日 (9月12日) 開催予定の、国連 ESCAP 決議 68-3 に基づく貿易円滑化のための地域協定審議、および農業関連貿易円滑化のための電子取引につき紹介があった。

- ・ 貿易円滑化のための地域協定：アジア太平洋域内の持続可能な貿易手続簡易化のための、電子

取引と国境を越えた電子データ／電子文書の認証の実現に関わる地域協定（Regional Arrangement）につき、専門家によるドラフト文書のコメントにつき審議が行われる予定。今のところ目立った進展はない模様。

・農業関連貿易円滑化のための電子取引：UNNEXT農業グループの第1回会合であり、中国およびタイの取組みの説明、農業関連貿易円滑化のガイドライン策定につき審議される予定。農業関係では、動植物検疫、耕作状況報告、農業試験結果報告、家畜異動、漁獲追跡、餌・食物に係る緊急通報などの標準化が国連CEFACTの下で進められている。それら国連CEFACT標準との整合化が進められるのかが気にかかるところである。

（2） ラウンドテーブル・ディスカッション

会議時間が短縮されたため、後日メールにて各アドバイザーから意見を提出するよう求められた。

小生からは、次の2点につき提言する予定。

・貿易ロジスティックスについて：エンド・ツー・エンドのサプライチェーンにおける情報連携においては、輸出入のゲートにおける情報共有円滑化に留まらず、輸出入ゲートと輸出入者の間にいるフレイトフォワードナーが重要である。特に、輸出側のフォワードナーと輸入側のフォワードナーが、国際標準に基づくタイムリーな情報交換を行うことで、国際サプライチェーンを通じた情報共有が可能になる。

・貿易ファイナンスについて：今回は、BPO等の取組みについて紹介があったが、金融機関や貿易ゲートだけからの視点によらず、サプライチェーン・ファイナンス（信用度の高い取引当事者の与信を、その取引相手へのファイナンスでも考慮する等）の視点による仕組みも考慮すべきであろう。